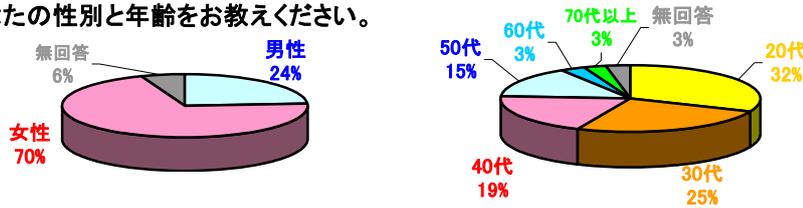


# 第8回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートで伺った。参加者約114名のうち、67名の方から回答をいただいた。

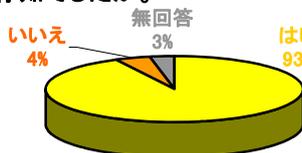
## Q1 あなたの性別と年齢をお教えてください。



## Q2 ご職業(もしよろしければ、会社名、職名も)をお教えてください



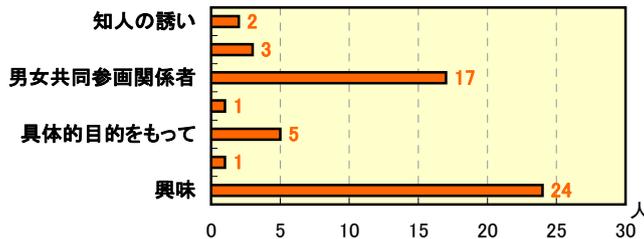
## Q3 これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか。



## Q4 このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。

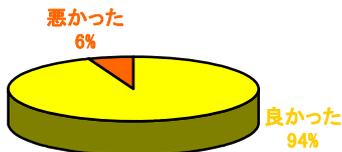


## Q5 このシンポジウムに参加された動機は何ですか。(複数回答可)(有効回答のみ)

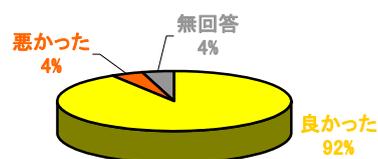


具体的目的の内訳:  
日頃から自身の活動プランを立てる上で重要な問題であり、ヒントを得たい気持ちがあった。/ 男女共同参画の現状把握のため。/ 東北大における男女共同参画の取組みと課題を知ること。シンポジウムの方法を知りたかった。/ 自分自身のキャリアデザインの参考にしたいから。/ 本学の男女共同参画について、具体的に現状、これからの動向を聞きたかった。女性の先生方の話を聞きたかった。(私の所属には女性の教員が一人もいないので。)

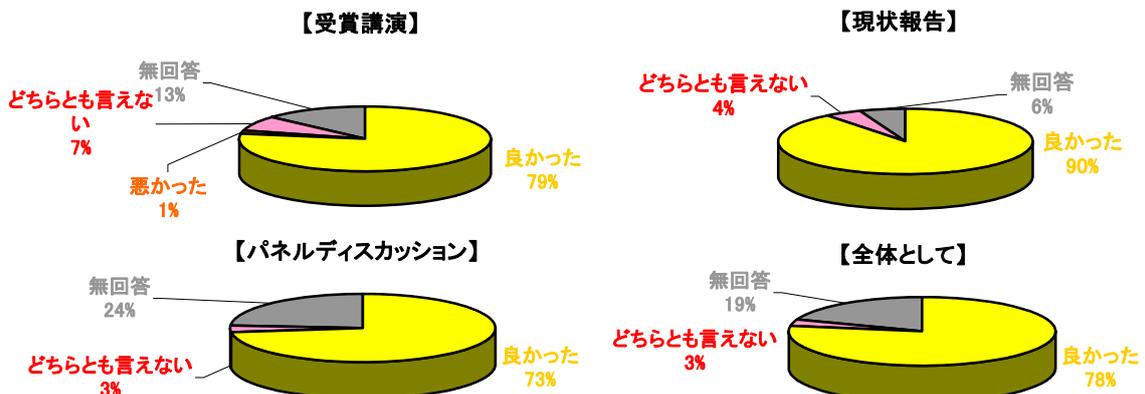
## Q6 開催日時について



## Q7 開催場所について



## Q8 シンポジウムの内容について



## Q9 内容についての感想(抜粋)

- ※ 他の分野のお話が聞けて面白かった。
- ※ 講演時間が短い。講演内容に対する公開の質疑応答の時間が欲しかった。
- ※ 女性限定の採用が実際に行われていることをはじめて知った。研究環境の問題を先に女性が感じるという小谷先生の意見は面白かった。
- ※ 沢柳賞受賞講演と成果報告講演が特におもしろかった。成果報告講演に関しては、これからもサンプルを増やして研究を続けてほしい。パネルディスカッションでは「本音で語る」が実践されていてとても良かった。
- ※ 女性だけでなく男性にも、サポートになるという考え方に共感しました。
- ※ パネルディスカッションに、文系の先生が少ないのが気になりました。女子学生の多い文系の意見も聞いてみたかったです。
- ※ 男女共同参画社会基本法が制定されてから10年たつが、なお、課題が山積であることを再認識した。行政としてすべきことをもう一度考えなくてはならないと思った。女性が登用・採用されるための改善策、ポジティブアクションを検討するための参考となりました。
- ※ 内容についてはではないが、今回は男性の出席者が多く、学内での男性の男女共同参画への理解が広がりを感じた。
- ※ 男女共同参画への理解がすすみ、良かった。
- ※ 現状報告がよくまとめられていてよかった。
- ※ フロアからの本音も聞けて良かったです。
- ※ これまでシンポジウムに複数回参加させて頂きましたが、有意義な議論(本音の?)が多く、満足度が高かった。「すそ野を広げる」「ライフワークバランス」などの観点は、性別を問わず個人の能力を發揮するための環境作りにつながるものと思う。そのための制度確立、継続を目指してほしいと思う。
- ※ パネルディスカッションは実施にあたっての気になる点について率直な意見がでたことがよかった。
- ※ 理系の男女共同参画推進事業について報告されていたが、辻村先生が報告の中で示されたように、必ずしも高くはない実情の文系における取り組みはどうなっているのか?文系との連携とは具体的にどのようなものか?パネルディスカッションでの工藤先生と辻村先生の指摘に共感した。

## Q10 男女共同参画に関連したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- ※ 研究者だけでなく、職員の方も取り上げてほしい。
- ※ 男性への逆差別を扱うような内容。
- ※ ワーク・ライフ・バランス推進に関する企画
- ※ 男性の参加しやすいものをお願いします。
- ※ 各大学のポジティブアクションの仕方なども学びたいと思いました。
- ※ 少人数グループによる座談会を希望します。参加者の互いの意見交換ができる場があれば良いと考えています。
- ※ すそで頑張っている当事者、支援をうけて活躍する女性研究者の夫、などの話が聞きたいです。
- ※ 大学生、大学院生向けのシンポジウムや、参加型のシンポジウム(参加者の意見交換等)があれば良い。
- ※ 沢柳賞受賞者の発表に質疑応答の時間を設けて欲しかった。
- ※ 他の国の先進的な取り組みを紹介していただければどうか。
- ※ 実際に結婚や出産した女性若手研究者や女性学生の実態や体験談、講演を聞いてみたい。文系でも法学以外の分野の部局のパネリストも入れてはどうか。パネルディスカッションで触れられた話の中には人文社会学の研究で指摘されている。
- ※ シンポジウムはあくまで「外」に対するアピールであると思うが、その前に東北大学として内部の改善を早急に進めてほしい。(部局訪問での強制的教育・普及活動など)

## Q11 東北大学における男女共同参画推進、または学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- ※ 他大学に比べ、東北大学は男女共同参画推進していると思う。このような会に参加すると触発されて、大変良いと思う。
- ※ 男女共同参画だと、どうしても女性支援、女性の社会進出にだけ目が行きがちであるが、一方で男性への逆差別問題についてはほとんど扱われない。こちらの問題に取り組まない限り男女共同参画にならないのではないかな。
- ※ 一朝一夕の努力で変わる問題ではありませんが(人々の意識も関わってくるため)、しかし東北大学の取り組みは着実に実ってきているのではないかと感じました。実際四月に入学して以来、東北大学は女性に焦点を当てた取り組みに大変積極的な印象を受けています。
- ※ 保育所などインフラ整備が急務である。
- ※ 今までの支援事業は幼稚園までの小さい子供対象みたいでしたが、小・中高生を持っている女性科学者への支援は将来的に可能でしょうか?例えば学会参加のため海外出張の際
- ※ こうしたシンポジウムは部局ごとにもっとアピールしても良い。足を運ぶとなるとハードルが高いので、資料を送付しても良いのではないかな。
- ※ ここに集まった方々の男女共同参画に対する意識は非常に高いが、ここには来ていない人の意識を変える方法について検討する必要があるのではないかな。
- ※ 自分の所属する研究科には女性教員が少なく、相談できる相手がいない。より女性教員が増えていくことを期待しています。
- ※ 現状のステップアップと新規採用についてのポジティブアクションの必要性を感じる。
- ※ 大学が男女共同参画を理論的にも実践的にも社会をリードして欲しい。とくに県内の教育分野にジェンダーの視点を入れていてもらいたい。
- ※ 東京在住の女性は、仙台に住むことにたいへん抵抗を持っていることもあり、そのハンディキャップを超える大きな方策を検討すべきである。(入学者、研究者に共通な点である)
- ※ 大きな問題を抱えている部局の情報は、現在の男女参画の体制では中央には聞こえてこないし、逆に教育的活動を中央で企画しても部局には届かないと思う。これの解決策を早急に準備してほしい。(部局長アンケートをとっても回答しない部局もあります)